

2021/10/28-2

(オマケの英語教室 for example, takeout) 書庫版



昨日の「オマケの英語居室 slice」の記事内で

「分からない単語 (相手でも自分でも) が出てきたら簡単な言葉の組み合わせで代用する」と言ったような主旨のことを述べましたが、今日になってふとある事に気づきました。

それは

「知っている言葉の数は少なくてもいいが、その代用をする簡単な言葉 (或いはみんなが知っている言葉) については、その原義や基本イメージをしっかり把握していないと代用出来ないな」

ということでした。

では此处で言う簡単な言葉がどんなレベルの単語を指しているのかと言えば、一言で言って中学で習った動詞、名詞、形容詞くらいです。

例えば動詞に絞り込んでもっと具体的に申し上げますと

Have (「持つ」のイメージ)、get (「得る」のイメージ)、make (「作る」のイメージ)、take (「取る」のイメージ)、run (「走る」のイメージ) などなど位のレベルです。

前置詞に絞り込んで申し上げますと

At (「ピンポイント」のイメージ)、on (「上とか連続」のイメージ)、in (「の中」のイメージ)、out (「の外」のイメージ)、for (「身体全部を使って向かう」のイメージ)、with (「何かを伴う又は使う」のイメージ)、from (「～からとか由来」のイメージ) などなどです。

いずれも「イメージ」と書いたのは変に「辞書的な単語として意味 (訳) を限定」しない方がいいからです

流動化させて固定化しない方がいいからです。

我が国ではこの傾向を「曖昧」と言いますが、外国では「フレキシブル (応用が利く)」と

とらえます。

そこが一番違うところです。

例えば上の動詞 take と前置詞 out を組み合わせると takeout で、我が国では「お持ち帰り（テイクアウト）」と独立した一個の単語になります（余談ですが当店はカーリー屋としてコロナ禍では是を中心に商売をしております）が、外国では

Take out は他にも「取り+出す」で「取り出す」という意味でも使います。

動詞+前置詞の区分けは余り意味がなく、むしろ取り (take) 出す (out) と二つ動詞が並んで、日本語で言うところの「取り出す」という二つの合成動詞（語）に近い使い方がされております。

自分が外国人と会話をしているときには動詞+前置詞で何々などとは一切考えずに、日本語の合成動詞に二つの単語を当てはめている（たまたまそれが動詞+前置詞になっている）だけの様な気がしております。

要するに余り深くは考えないで、後は使った単語が通じているのか居ないのか相手の表情を見てチェックし言い直すかどうかフォローしているだけなのです。

追記 1)

語学の先生は動詞+前置詞と言わざるを得ないのですが、我々は余りそんな事を気にする必要はない様な気がしております。少なくとも英会話レベルでは。

追記 2)

記事内の takeout は邦訳で「お持ち帰り」ですが、原義は「容器に入れて店から注文品を取り出す（持ち出す）」という事から来ております（動詞+前置詞（自己流では合成動詞）を名詞（合成語）化した訳です）